

「フード・マイレージ」を知って 地球環境問題を再考しよう！

「フード・マイレージを理解すれば、自分自身の生き方まで見直すきっかけになる」

英国で考案された概念を最初に日本に広めた篠原孝代議員（農林水産省出身）は言う。

フード・マイレージとは、各国の食糧輸入量に輸送距離を乗じて算出される数値で、単位は「t・km」。島国で食料自給率も低い日本は九〇〇〇億t・kmを超え、世界でも断トツの高さである。

一人当たりのフード・マイレージは米国からの四一七八t・kmが最も高い。食料別に見ると、穀物が全体の約五三%を占めている。畜産物生産のために大量のトウモロコシや大豆を輸入しているからだ。

フード・マイレージで注目すべきは、「地球環境問題」。食料輸送に伴って、「酸化炭素などの温室効果ガスが大量に排出されている。日本の場合には食料輸入だけで一七〇万tの二酸化炭素を排出している計算だ。

これは日本の年間温室効果ガス排出量の約〇・九%に相当する。フー

ド・マイレージが高ければ高いほど地球環境に負荷をかけているわけで、「食料の六一%を海外に依存しているのだからフード・マイレージが高くて当たり前」などと聞き直ってばかりもいられない。

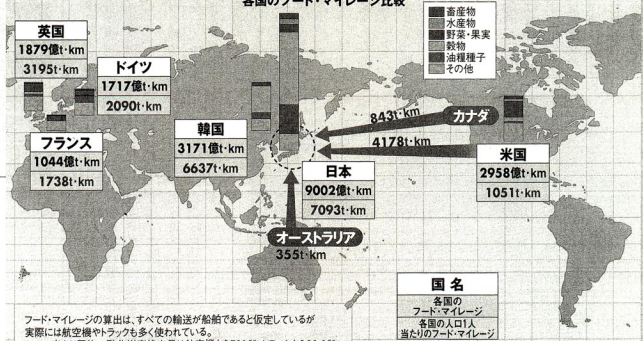
では、フード・マイレージを低くする方法は何か。ずばり、食生活の見直ししかない。自給率は一〇〇%で輸入に頼っていないコメをたんぱく食べ、大量の飼料を消費する肉は食べないことだ。

さらに一歩踏み込めば、フード・マイレージを最も押し上げている要因である畜産物生産の方法を考え直すことに行き着く。飼料をトウモロコシや大豆などの穀物だけに頼るのではなく、飼料米や牧草などで飼育することも考える必要があるだろう。

たとえば熊本県の阿蘇地域で生産されている「阿蘇のあか牛」は完全放牧で飼料は牧草が中心。和牛独特の「サシ」は入りにくいが、そのぶんフード・マイレージ減少に貢献できるし、脂肪過多の食生活を見直すきっかけにもなる。一人ひとりの意識変化が必要なのだ。

日本人は食べれば食べるほどCO₂を排出している！

各国のフード・マイレージ比較



フード・マイレージの算出は、すべての輸送が船舶であると仮定しているが実際には航空機やトラックも多く使われている。1t・km当たり平均二酸化炭素排出量は航空機なら5799g、トラックなら98.6g、船舶なら13gだ。フード・マイレージが多ければ多いほど、二酸化炭素を排出しており、地球環境に負荷をかけている。

出所：「フード・マイレージ あなたの食が地球を変える」(日本評論社) 中田哲也 著